C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf２０１５　園長だより　９月号　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　園長　　平澤　正則

－創立百周年に向けて　その１－

　　　　　　奥山りう先生の言葉「３５年間をふりかえって」（創立３５周年記念誌から）

善隣幼稚園は大正６年１１月に創立し，今年で９８年目を迎えています。２年後の百周年目には記念の事業を行いたいと考え，準備を始めたところです。

今回，過去の資料を探したところ，今から６２年前の昭和２８年１２月に発行された「創立３５周年記念誌」が見つかりました。Ａ５版１２頁，発行者　奥山りう，石岡印刷所の印刷によるものです。これは，当園の瀧田尚子の叔母にあたる国府地区在住の太田桂子様が姑の太田緑様から託されていたものです。太田緑様は昭和２８年当時，当園の母の会会長として創立３５周年記念誌の編集責任者をされていた方です。このような貴重な資料が身近なところにあったことに私は縁というものを感じました。

　さて，当時園長の奥山りう先生のお人柄については私が当園に赴任してから度々聞かされてきました。

それは，時に厳しく，時に優しく，いつも登園時は入り口で園児たちを出迎えていたというものです。その奥山りう先生のお言葉を直接拝読することができたことは私にも喜びです。この記念の冊子がどの程度発行され，誰がお持ちなのか今のところ不明ですが，このような歴史の発掘ついては今後広く皆様のご協力をよろしくお願いしたいところです。遠慮なさらず，ご一報いただければ幸いです。以下の寄稿は，創立以来の歴史の一端と当時の奥山先生の心境をも察せられ興味深いものです。

－原文どおり（ただし，現代語標記に変換）－

【　　　　　　　　　　　　　　　　３５年間をふりかえって　　　　　　　　　　　　　　　　奥山りう

「幼児のごとくならずば神の国に入る事あたわず」３５年前に亡き母は幼児の心を神へ，神の心を幼児へとの根本精神でこの幼稚園の保育は始められた。そして心から幼児を愛し抜いた。雨の日にはよく出席したとてお菓子を作って与えることを母は喜びとし又幼児たちも喜びとしていた。叱る時も我が児を叱るように少しも遠慮なく心から叱っていさめていた。東京から遊びにいらしていた母の友人は「この幼稚園は他にない幼稚園だ」と申されたのを今でも忘れない全く型にはまらない，いかにも家庭の続きという感じの保育法だった。学校を卒業してきた私は学校で教えて頂いたように取り換えようと思ったが母の尊い精神は私の心を打って私はそのまま母のとった保育精神に従った。その精神は人生の最後に行くべき道で最も正しい道である事を３５年過ぎた今でもつくづく思わされている。人は変わり世の中は移って行った。しかしこの精神は変わりない真理である。そしてこの精神がこの幼稚園にある限り神の祝福のあることを信じる。牧師を止して静かな老人の生活に入っても，最後まで死ぬ５日前まであくまで幼児の友となって幼児の如くならずば神の国に入ることあたわずとの聖書の言葉をもって石岡町の方々に説いて行った。その後を受けた私には亡母の半分の信仰も力もない，自分の力なさを深く感じる。しかし聖書にあるように愚か者を選んで幼児のために２８年間奉仕させて下さってこの幼稚園を今日に至らせて下さった。善隣幼稚園の名にふさわしい良き隣り人である幼稚園にしなければならない。又この幼稚園より巣立って行った幼児たちが石岡町に或いは広く日本各地に，又世界各地にあって善き隣り人としての人生を全うしこの幼稚園の精神を心の底にしっかりともって神と人に仕えていく人になっていただきたい。卒業生の中には博士の方も２名もあり尚勉学中の人或いは実業界で相当働いている方或いは石岡町で相当の指導的立場にいる方々が多い事はほんとに感謝の他ない，幼児たちの毎日の祈りは大きくなったら立派なお仕事をさせていただけるようにとである。３５年間神の祝福のもとにあったこの幼稚園のために巣立って行った７００名以上の卒業生のため神の祝福を頂いた事を深く感謝すると共にもっとへりくだって神よりの祝福を願いましょう。そして幼児の如き心をもて仕えてまいりましょう。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　】